

英語が通じない国際交流

教育界では、グローバル人材育成へ向け、小学校英語教科化の話題が盛んになっている。
高校卒業時に英検準二級程度の英語が「できる」ゴールを目指し、小学校3・4年生の英語活動、5・6年生の英語教科化、そして中学校から高校へ。
グローバル人材育成において英語は避けることはできないだろう。

さて、5月末の週末、妻と片町へ行った。
居酒屋のカウンターで飲食していたら、よく似た年齢の夫婦と思われる2人が入ってきた。
カウンターは多くが空いていたので、なぜか近くに座った。
様子を見てみると、メニューにスマホをかざしているので、外国の観光客とわかった。
そのうち、女性が私に彼女の母語で質問してきた。
英語ではない。
China or Taipei ? と聞くと、台湾からの観光客であった。
2人は、漢字圏にいたので、鳥とか、豚とか、牛とか、焼いてあるとかは何となくわかるのであろうが、メニューを指して、「何？」という表情をする。
英語とジェスチャーで説明するが、どうも英語は使わないようだ（もちろん、当方の英語が怪しいものもあるが）。

すでに、居酒屋でもグローバル化は始まっている。ここでは、英語を使わないコミュニケーションが当たり前なのだ。
こんな状況では、英語一辺倒の教育では全く対応できなくなる。特に、アジアからの一般観光客が来る金沢では顕著であろう。
学校教育では時間的なことで対応は難しいが、我々は、ネイティブとしての日本語、なんとか通じ合える英語、そして、中国語・韓国語・タガログ語あたりが簡単な会話程度できるグローバル人材になる必要があるのだろう。

学校教育は物理的な限界がある。
後は、時代を生きる者としての必要感、関心により、生涯学習の視点で取組むことになると思う。